

事項一五 独国ノ日墨独同盟策謀關係一件

九七七 二月二十八日

在米国佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

独逸ノ独墨兩國同盟及墨国大統領ニ依ル日独
間仲裁方申込ニ関シ秘密情報ヲ入手セル旨国
務長官ヨリ内告ノ件

第六九号(極秘)

(三月一日接受)

二十八日招キニ依リ國務長官ヲ訪問セル処同官ハ曰ク此程
米国政府ニ於テ独逸外務大臣ヨリ在墨独逸公使ニ宛タル一
暗号電報ヲ解読シタルニ独逸ハ米独開戦ノ曉墨国ニ対シ同
盟ヲ申込ミ其報酬トシテ「アリゾナ」、「デキサス」、南
加州等ノ回復ニ努ムヘシトノ提議ヲ為シタル後尚ホ墨国大
統領ニ於テ自己ノ思付トシテ日本ニ対シ Sympathetic
understanding ヲ提議シ日独間仲裁ノ勞ヲ執ラレタキ旨申
込ムヘシ云々トアリタリ

右電報ハ未タ在墨独逸公使ノ手ニモ入り居ラザルベキモ其
内世間ニ洩ルルコトアルヤモ計リ難キニ付今ヨリ日本大使
ニ内告シ置クヘキ旨大統領ヨリ命令アリタルニ依リ御足勞

居タルハ勿論墨国近來ノ態度殊ニ在墨代理公使ヨリ閣下宛
第九号墨国政府提議ノ如キモ其ノ真相ヲ説明スルニ足ルト
察セラル尚本件独逸ノ画策ハ余リニ突飛ニシテ日本ノ関ス
ル限り米国ニ惡影響ヲ貽スノ憂ナシト信ズルモ時節柄ニモ
アリ且米国ノ国情ニ鑑ミ本使ハ斯ル提議ガ果シテ日本ニ達
シタルヤ否ヤヲ知ラザルモ到底一顧ノ価値ナキコト明白ナ
ル趣意ノ簡明直截ナル「ステートメント」ヲ發表シ置ケリ
之ト同時ニ國務長官モ亦日本ガ如何ナル事態ニ於テモ本件
ニ關係ナキハ明カナル趣ヲ發表スヘシ是ニテ我方ニ関スル
限り全然惡影響ヲ打消シ得ヘシト考ヘラルルモ墨国政府ヨ
リ果シテ斯ル提議アリタルヤ及右ニ関スル帝國政府ノ御回
答振等本使心得迄ニ回電アリタシ

本件カ國務省ヨリ漏ラサレタルハ疑ナキ事實ナルガ今ニ迫
ンテ斯ル処置ヲ執ルニ至リタル理由ハ素ヨリ日本ニ対シ禍
心アルニ非ズ唯数日前独逸大宰相カ米国ノ挑戦の態度ヲ攻
撃シタル演説ニ対スル反駁ノ意味ト更ニ進ンテ目下議會ニ
繼續中ノ往電第六七号大統領ニ非常權限附与ノ議案ニ対シ
種々ノ原因ニヨリ共和党及平和論者間ニ反対アルニ鑑ミ議
案ノ即決通過ヲ促スノ魂胆ニ出デタルモノト認メラル

ヲ願ヒタル次第ナリト述ヘタリ
在墨公使ヘ転電セリ

九七八 三月一日

在米国佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

独逸ノ对墨同盟提議内容ヲ聯合通信社公表竝
日本ハ右ニ無關係ナル旨声明ノ件

別電

三月一日発在米佐藤大使ヨリ本野外務大臣宛電
報第七二号

独逸外務大臣ヨリ在墨同国公使宛右同盟提議方
訓電

第七一号

(三月二日接受)

往電第六九号ノ件一日朝聯合通信社ノ手ニ依リ公表セラル
其ノ内容ハ大体既電ノ通ニテ独逸外務大臣ヨリ在墨公使ニ
宛タル訓電ノ全文ト認ムヘキモノハ注目ノ価値アリト思考
セラルルニ付別電第七二号ノ通大要電報ス玆ニ注意スヘキ
ハ右ハ在米独逸大使ヲ經由セルト殊ニ其ノ日附カ一月十九
日トアル点ニアリ即チ独逸ハ米国トノ葛藤ヲ疾クニ予想シ

註 前掲五八号文書

(別電)

三月一日在米佐藤大使発本野外務大臣宛電報第七二号

独逸外務大臣ヨリ在墨同国公使宛、墨国ニ対スル同盟提議訓電
大要

Tel. No. 72 (Betsuden)

On 1st February we intend begin submarine warfare
unrestricted. In spite this, it is our intention endeavor
keep neutral United States. If this attempt not success-
ful, we propose alliance with Mexico following basis:
that we make war together and together make peace;
we shall give general financial support; and it is under-
stood Mexico is to reconquer lost territory, New Mexico,
Texas, Arizona. Details left you for settlement. You
are instructed inform President Mexico of above in
greatest confidence soon, as certain that there will be
outbreak war with United States, and suggest President
Mexico, his own initiative, should Communicate with
Japan, suggesting adherence immediately this plan.
Same time offer mediate between Germany Japan.
Please call attention President Mexico that employment
ruthless submarine warfare now promises compel Eng-

land make peace few months.

九七九 三月一日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

独逸ノ墨国ニ対スル同盟提議ニ関シ迅速ニ日

本政府ノ態度表明方意見具申ノ件

第七三号(至急) (三月三日接受)

往電第七一号ノ件ハ甚タ突飛ニ似タレトモ米國ノ国情ニ照
ラシ一般人心ニ与ヘタル印象ハ案外輕視スヘカラザルモノ
アリ此人心ヲ利用シ日米國交ニ裨益スル様禍ヲ軋シテ福ト
ナスニハ却ツテ微妙ノ機會ヲ授ケラレ斯克ノ如キハ啓發運
動ノ真諦ト思考セラルルニ付此際閣下又ハ首相ノ名ニ於テ
米國民衆ニ対シ充分意味アル言明ヲ為サルルニ於テハ其効
著シト思考ス幸ヒ「シカゴ、ヘラルド」等ヨリ首相其他へ
直接本件意見問合セノ電報ヲ發スヘキ模様アルニ付是等ニ
対シテハ直接応答セラレ其他米國關係ノ通信社等ヲ利用シ
可然御措置相成タシ右ハ時機ヲ失シテハ効力ハ大部分ヲ消
滅セシムヘキ憂アルニ付早速御取運ヲ要スヘキハ申ス迄モ
ナシ

九八〇 三月一日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

独墨同盟計画証拠資料ハ上院ニ発表シ難キ旨

大統領回答ノ件

第七四号 (三月三日接受)

三月二日上院ハ Lodge 氏提出ニ依リ同日新聞ニ発表セラ
レタル独逸外務大臣ノ書面ニ関シ米國政府所有ノ材料ヲ公
益上差支ナキ限リ上院ニ送付セラレタキ旨ヲ大統領ニ要求
セル決議案ヲ通過セル処右ニ対シ大統領ハ政府ニ於テ該書
面ノ正確ヲ示スベキ証拠ヲ有シ右証拠ハ今週中ニ政府ノ手
ニ入リタルモノナルコトヲ言明シ得ルモ之レ以上ハ公益上
目下上院ニ発表スル能ハズトセル國務長官ノ意見書ヲ以テ
之ニ答ヘタリ

九八一 三月三日 在墨國太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

日米關係ノ現状及米独開戦ノ際ノ日本ノ態度

等ニ付墨國外相ヨリ問質ノ件

第一一号

二月二十四日米國製排日活動写真取締方相談ノ為荒井ヲ外

務大臣ノ許ニ遣リタル処要談後同大臣ハ日米關係ノ現状及

米独開戦ノ際日本ノ態度ニ就キ思惑ヲ尋ネラレタルニ付荒
井ハ日米關係ノ現状ハ正確ニ承知セズ又私見ニ依レバ米独
開戦スルモ日本ノ態度ニ変化アルヘシト思ハザルモ一応本
官ニ問合セタル上後日機會アラバ御答ヘセント言ヒテ引取
リタルガ右ハ平生ノ昵懇ニ乘シ雜談セラレタルコトニテ格
別本官ノ意見ヲ通ズル必要ナキカト一応ハ考ヘタルモ先般
ノ中立國ニ対スル提議其他ニヨリ或ハ独逸側ノ暗示ニ基ケ
ルヤモ計リ難ク從テ何等返答ヲ待チ居ル様ノ事アラシカト
モ思考セラレタルニ付同月二十七日再ヒ右活動写真ノ件ニ
付同大臣ノ許ニ遣ハシタル際若シ先方ニ於テ右ノ談話ヲ持
チ出シタルトキハ本官ハ米國移民方面ノ問題其他西部ノ土
地法案問題等ハ悉ク円満ノ解決ヲ告ケタル様子ニテ兩國關
係ハ良好ナルコト又米独關係ハ最近一層危險トナリタル感
アルモ今直ニ戰爭ヲ生スルモノトハ思考セズ而シテ独逸ニ
シテ日本ノ商船其他利益ニ害ヲ加ヘザル以上日本ノ態度ニ
ハ大ナル變化無カラシカトノ私見ヲ有シ居ル旨語ルモ差支
ナシト含メ置キタル処大臣ハ要談後果シテ之ヲ尋ネラレタ
ルニ依リ右ノ通答ヘタル由ナルガ右ハ在米日本大使ノ閣下

宛電報第六九号ノ事実モアルニ付御参考ノ為電報ス

尚ホ二十四日訪問ノ折為念先般ノ中立國ニ対スル提議ノ動
機ヲ探ラセタルニ大臣ハ米独開戦ニ当リ最モ損害ヲ被ムル
モノハ墨國ナルヲ以テ右ノ提議ハ兩國ノ開戦ヲ防止セント
スルニ出デタルモノナリト云ヒ荒井ハ此外尚米國ニ面当テ
ノ意味ナキカト反問シタルニ大臣ハ笑ツテ答ヘザリシトノ
コトナルガ先般ベルンストロフ大使來墨ノ噂アリタル際外
務次官カ大使ヨリ寧ロ在米独逸人民ノ転來ヲ恐ルト語リタ
ルニ照ラシ合ハスモ米独開戦カ墨國ニ利益アリトハ墨國當
局ニ於テ考ヘ居ラザルカト一応ハ想像セララル

九八二 三月三日 在墨國太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

墨独同盟ニ関スル新聞報道ニ付仏國公使等來

訪會談ノ件

第一三号

三月一日当地朝刊ノ一新聞ハ「アッソシエーテッド、プレ
ッス」通信トシテ米國政府ノ手ニ入リタル墨独同盟ニ関ス
ル書面(在米大使往電トハ書面ト云ヘル点ノミ差アリ)ヲ
掲ゲ大々的ニ報道セル為同日午後仏國公使ヘ頗ル心配ノ態

ニテ本官ヲ訪問シ来リ墨国政府ヨリ何等申出アリタルヤヲ尋ネタルガ先般外務大臣ガ当館館員ト雑談中日米關係ノ現状及ヒ米独開戦ノ際日本ノ態度如何ト問ヒタルコトアリ日米關係ハ頗ル良好ナルコト及米独開戦ハ未ダ想像スルニ至ラザル旨答ヘシメタルコトアルモ今回ノコトニ関シ何等聞キ及ヒタルコトナシト云ヒタルニ墨国政府ハ在日本墨国公使ヲシテ何等日本ニ申込マシメタルコト有ル間敷キヤト更ニ問ヒタルヲ以テ本官ハ一向承知セザルモ多分斯ノ如キコトハ有之間敷ク又万一申込アリタリトテ我政府ハ到底之ヲ相手ニセザルヘシト内話セルニ同公使ハ安堵シタルモノノ如ク更ニ軫シテ墨国ハ独逸ニ同盟スヘキヤ否ヤノ問題ヲ掲ケ独逸ハ米独開戦ノ際米国内ニ保有セル資金ヲ墨国ニ貸ストノコトヲ餌シテ墨国ヲ釣リ居ルト且ツ本件ヲ墨国側ニ於テ斡旋セルモノハ前駐独公使スワラン及ヒ大藏大臣カブレラ等ノ有力者ナルニヨリ財政ニ苦メル墨国政府ハ之ニ傾クヘシト思考スル旨ヲ語り本官ノ意見ヲ求メタルニヨリ本官ハ墨国政府トテ独逸ニ同盟セハ独リ損害ヲ被ルコトヲ知リ居ルヘキニ付斯ノ如キハ敢テセザルヘシト考フル旨語リ置ケリ而シテ此後段ノ部分談話中英白二代理公使訪問シ来

九八四 三月三日 在ポートランド赤松領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

独逸ノ日墨独同盟策謀ノ背景ニ関スル新聞論
説報告ノ件

第四三号 (三月四日接受)

日墨両国ト聯合シテ米國ヲ攻撃セムトスル独逸ノ計画曝露事件ハ盛ニ当地新聞ニ伝ヘラレ日米國交上頗ル面白カラザル印象ヲ与ヘツツアル所之ニ関シ二日ノ「オレゴニア」ハ覺醒ヲ促スト題シ大要左ノ社説ヲ掲ケタリ
米國ヲ以テ他國ヨリ攻撃ヲ受クルコトナキ安全ノ地位ニ在リト夢想セルモノ及米國ハ歐洲戦争ノ災害ヲ免レ其ノ利益ノミヲ享受シ得ヘシト妄信セル者ハ日墨ヲ連ネテ米國ヲ侵略セントスル独逸ノ計画曝露ニ由リテ否応ナク覺醒セシメラレタルナラム右計画ニシテ未然ニ曝露スルコトナカリセバ米國ハ或ハ不意ノ襲撃ヲ受ケタルヤモ計リ難シ抑モ独逸ヲシテ斯ノ如キ計画ノ成功ヲ予期セシメタルハ故ナキニアラズ墨國ニ対スル我大統領ノ優柔不断政策一二州会ニ於ケル排日土地案ノ出現之レナリ更ニ一步ヲ進メテ考フレバ先ツ英國軍艦ニ対スル墨國ノ油ノ供給ヲ杜絶シテ之レガ活動

リ仏国公使ト同様ノ意見ヲ述ヘ居レリ
在米大使ニ転電セリ

九八三 三月三日 在墨國太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

墨独同盟ニ関スル墨国外相ノ否認及日本外相
声明ノ件

第一四号 (三月五日接受)

一兩日前ヨリ「グワダハラ」ニ旅行中ナル外務大臣ハ昨二日同地ニ於テ独逸政府ヨリ何等同盟等ニ関スル提議ヲ接手セザリシ旨ヲ宣言シ居ルモ拙電第一一号記載ノ事實及本月一日ノ連合通信社電報中ニ現ハレタル独逸訓令ノ日取等ヨリ考フルニ在当地独逸公使ガ右訓令ヲ接受シ既ニ墨国政府何等申込ミタルハ殆ンド疑ナキガ如ク從テ本三日ノ新聞ガ東京電報トシテ掲ケ居ル閣下ノ声明中墨国政府力縱令独逸ノ提議ヲ受ケタリトスルモ之ヲ日本ニ移牒セザリシハ同政府当局ノ賢明ヲ表示スルモノナリトアルハ墨国政府ニ好感ヲ与ヘ尚一般ノ物議ヲ鎮静セシムル効果アリト觀察セラル

力ヲ奪ヒ米國軍艦ガ大西洋ニ独逸潛航艇ニ当レル間ニ日本軍ノ一部ハ布哇比律賓ヲ占領シ一部ハ墨國ニ上陸シ又墨國ヲ根拠地トセル日墨聯合軍カ米國中部ニ侵入シテ東西ノ聯絡ヲ断ツカ如キハ蓋シ有リ得ヘキ事柄ナリ独逸ハ又一方露西亞ヲ誘ヒテ聯合軍ヨリ離脱セシメント努メツツアリ露西亞ニシテ独逸ノ味方トナラハ日本亦之レニ加ハルヘキハ当然ナリスノ如キ計画ハ米大使カ伯林ニ於テ辭令ヲ交換スル間ニ既ニ熟シ居タルナリ曩ニ「カランザ」カ戦争ノ終決ヲ急クヲ口実トシテ軍需品ノ輸出ヲ禁止シ「ヴィラ」ノ日本ニ奔リタルモ今日思ヘハ此ノ計画ト關係アリタルヲ知ルヘシ平和論者タル者宜敷鑑ミテ覺醒スヘキナリ計画ハ一旦挫折シタリト雖独逸思想ハ常ニ存在ス米國ヲ危險ヨリ救フモノハ充実セル軍備ノミ云々
在米大使ヘ電報セリ

九八五 三月三日 在伊國伊集院大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

墨國ニ於ケル独逸ノ陰謀ニ関連シ米國大使ハ
日米兩國ノ親交ニ付内話ノ件

第三一号 (三月五日接受)

三月三日米國大使ヲ訪問シ墨西哥ニ於ケル独逸陰謀ノ件ニ
關聯シ(秘)同大使ノ内話ノ要領左ノ通

實ハ独逸ガ各方面ニ於テ先日来種々ノ運動ヲ為シ居リ現ニ
当地ニ於テモ同様ナル事ヲ探聞シ居リタル際先日或伊太利
人及法王庁ノ一僧官各別ニ同大使ヲ訪問シ平和ヲ促進セシ
ムル為メ米國政府ニ於テ協商國側ニ軍器及軍需品等ノ輸出
ヲ禁止シ與ルルコトハ出来マジクヤトノコトニ付同大使ハ
之ニ對シ從來ノ成行ニ照ラシ今日ニ至リ斯ノ如キ行動ヲナ
スハ協商國側ニ敵對行為トナルヲ以テ到底之ニ応ズルコト
能ハズト答ヘタルニ同人等ハ夫レニハ好辭柄アリ即日本ガ
米國ヲ窺ヒ居ルヲ以テ米國自衛上ノ必要ニ基キ爾來供給ヲ
為シ能ハズト云ヘバ可ナラントノコトニ付同大使ハ夫レハ
以テノ外ノコトナリ日米ノ關係ハ何等憂フベキ事態ニアラ
ズ昨今益々兩國ノ親交円満ニ赴キツツアリテ米國ハ日本方
面ヨリ毫モ危險ヲ感ジ居ラズ寧ロ反對ニ從來及今後ト雖独
逸側トノ衝突ノ危險ヲ覺ユル位ナリトテ明白ニ挨拶シタル
為メ彼等モ其儘ニテ引取りタリ愚ト云フヘシ然シ參考ノタ
メ本國政府ヘハ右ノ事實ヲ報告シ置キタリトノコトニ付
本使ハ右ノ御打開ケ話特ニ日本ニ對スル同大使ノ好意ヲ謝

九八七 三月三日

在仏國松井大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

日墨独同盟提議ハ一顧ノ価値ナキ旨新聞記者

ニ説明セシメタル件

第四一号

(三月五日接受)

独逸カ墨西哥ヲ教唆シ日本ト結ンテ米國ニ對抗セシメント
シタル由ノ報道ハ可ナリ當國公衆ヲ愕カシタルモノノ如ク
諸新聞ヨリ本使ノ談話ヲ求メ來リタルガ本使ハ斯ル計画ハ
独逸ノ常套手段ナルモ余リニ見透キタルモノニシテ一顧ノ
値ヲモ附スルニ足ラザルモノナレバ特ニ之カ為談話ヲ為ス
ノ必要ナキ旨館員ヲシテ説明セシメタル処三月三日ノ各新
聞ニ當館ヨリ聴取リタル所トシテ右ノ次第ヲ公ケニシ論說
ニハ独逸ノ暴戾ヲ責ムルト同時ニ東洋ニ於ケル我忠実ナル
同盟國ハ独逸ノ斯ル誘惑ニ耳ヲ飯スモノニアラザル旨ヲ記
載セリ

九八八 三月三日

在蘭國落合公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

独逸ノ對墨同盟提議ハ米國參戰ノ場合ニ限り

タル旨独側発表ノ件

シタルニ更ニ別電(註)一號ノ如キ内話ヲ為セリ (露都經由三月四日後
六四九 第一八九號)

註 別電記録ニ存セズ

九八六 三月三日

本野外務大臣ヨリ
在米國佐藤大使宛(電報)

独逸ノ對墨同盟提議ニ關連シ對日提議說ハ事

實無根ナル旨新聞発表ノ件

第六九號

貴電第六九號及第七一號ニ關シ本件報道及貴官ノ弁明ハ三
月二日三日ニ亘リ「ロイテル」及「アッソシエーテッド」
プレス」通信ニ由リ日本諸新聞ニ掲載セラレタルガ帝國政
府ハ今日迄独墨何レヨリモ何等此ノ種提議ニ接シタルコト
ナク仮令擲後如此提議アリトスルモ帝國政府ニトリ一顧ノ
価値ナキ次第ハ帝國從來ノ態度ニ徴シ何人モ疑ハザル所ナ
ルヘシ要スルニ右ハ独逸側ノ淺薄ナル日米離間策ト認メラ
ルルモ万一ノ誤解ヲ防ク為當省ニテハ全然事實無根ノ旨簡
單ニ日本新聞ニ掲載セシメ置キタリ
本電參考トシテ在墨代理公使ヘ転電アリタシ

第二四號

(三月六日接受)

独逸ハ二日 Wolf 電報ヲシテ伝ヘシメテ曰ク米國トノ開戰
ノ場合其戰爭參加ノ効力ヲ出来得ル限り滅却スル為予メ備
フルハ独逸ノ權利ナルノミナラズ独逸ノ義務ナリ故ニ在墨
西哥独逸公使ハ一月中旬米國カ独逸ニ宣戰シタル場合ニハ
墨西哥ニ對シ同盟ノ提議ヲナスヘシトノ訓令ヲ受ケタリ同
訓令ニハ米國ノ宣戰アリタル場合ニ限ル旨ヲ特ニ明記セリ
秘密経路ニ依リ墨西哥ニ到着シタル本訓令ヲ如何ナル方法
ニ依リ米國政府カ知リタリヤハ不明ナリ多分裏切りハ米國
領土内ニ於テ行ハレタルナラン

九八九 三月四日

在オタワ沼野總領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

日墨独同盟陰謀ニ關スル各紙社説報告ノ件

第四號

(三月五日接受)

独逸今回ノ陰謀ニ關スル当地方新聞社説左ノ如シ
三日 Citizen 独逸皇帝ハ日本ニ對スル黃禍論ノ張本人ナ
リ然ルニ奸策ヲ用イテ迄日本ノ助力ヲ借ラントスルハ如何
ニ独逸ノ窮迫セルヤヲ示スニ足ル雖然日本人ハ独逸ノ到底
企及シ得ザル高キ名譽ノ標準ヲ有スル國民ナリ

二日 Jouna Press 今回ノ陰謀ニ独逸ガ日本ヲ引合ニ出シタルハ幾分誤解ノ材料トナル虞ナキニアラザルモ独逸ノ希望ハ勿論「カリフォルニア」問題ニ対スル日本ノ不満ヲ利用セントスルニアリ其計画ノ突飛ナルト日英同盟及聯合諸国ニ対スル日本ノ利害共通ヨリ到底成功不可能ナルモノナリ故ニ陰謀ノ暴露ニヨリ日本ハ決シテ不利不信ヲ招クベキ者ニアラズ

九九〇 三月五日 在紐育矢田総領事ヨリ
本野外務大臣宛

独逸ノ対米日墨合縦運動ニ関スル当地情況報告ノ件

附屬書 三月三日附紐育タイムズ切抜

日墨独同盟提議ニ関シ本野外相声明ノ件

公第四一号 (三月二十九日接受)

大正六年三月五日

在紐育総領事 矢田長之助(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

独逸ガ一月十九日附ヲ以テ在墨同国公使ニ対シ其米独国交断絶ノ際ニ於ケル墨国ノ交戦加入ヲ慫慂シ是ガ為メ財政的

援助ヲ与フルノ外後日ニューメキシコ、テキサス、及アリゾナノ三州ヲ獲取セシムベキヲ約スルト俱ニ更ニ日本ノ加入ヲ求ムベキ旨ヲ墨国政府ニ申入レシメントシタルノ事実本月一日「アッソシエーテッド、プレス」ニ依テ各種新聞紙ニ表ハルルヤ曩ニ米国政府ガ国交断絶ヲ声明シテ猶ホ具體的手段ニ出デザル所以ヲ以テ其日本ニ対スル予戒ニ基クモノナリトノ推断の記事間々新聞紙ニ散見シタル事ニモアリ旁々一段ノ非常ナル驚愕ヲ惹起シ一面本邦公正ノ立場ヲ確信スルハ固ヨリ乍ラ特ニ之ニ関スル帝国官民意見ノ表明ヲ知ラントスルニ急ナルモノノ如ク現ニ右報導発表ノ前夜即チ二月二十八日ノ深更ニューヨーク、タイムス紙ヨリ電話ヲ以テ右ニ関スル本官ノ所見ヲ聞訊スアリ佐藤大使亦当日直チニ之ニ対シテ意見ヲ公表セラレ為メニ日本ノ誠意ニ対スル一般ノ信頼ト「アップレシエーション」ヲ厚クシタルガ三月一日及二日ノ両日「ニューヨーク、タイムス」、「イヴニング、サン」、「イヴニング、テレグラム」等ノ諸新聞記者更ニ本官ヲ来訪シテ種々意見ヲ求メタルニ付キ本官ハ其日本ガ独逸ト提携スルガ如キハ夢想ダニ及ハサル所ナルノミナラズ本件文書ノ真偽其レ自身スラ疑フモノニシテ

ナル印象ヲ当国各方面ニ与ヘタルモノニ付為念切抜添付候也

註 幣原次官会見談掲載ノ紐育タイムズ紙切抜省略

(附屬書)

三月三日附「ニューヨーク・タイムズ」切抜

日墨独同盟提議ニ関シ本野外相声明ノ件

March 3rd. New York Times.

Tokio, March 2.—Japan has received no proposition from either Mexico or Germany, directly or indirectly, to join in a possible war against the United States, Viscount Motono, Japanese Foreign Minister, informed The Associated Press today.

Viscount Motono said he considered such an idea ridiculous, it being based on the outrageous presumption that Japan would abandon her allies. If Mexico received the proposal, Viscount Motono added, that country showed intelligence in not transmitting it to Japan.

九九一 三月五日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

独墨日同盟ニ関スル新聞論説送附ノ件

附屬書 三月三日附仏語新聞ノ論說切抜

公第六四号 (四月九日接受)

大正六年三月五日

在墨

臨時代理公使 太田為吉(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

独墨同盟計画ニ関スル独逸外務大臣ノ駐墨公使宛訓令曝露セラルルヤ本月一、二及三日ニ亘ル間各新聞ハ種々ナル電報ヲ掲ケ当市ニ於テハ一般ニ物情騒然タル有様ナリシモ論說ヲ掲ケテ之カ論評ヲ試ミタルモノ別紙切抜仏語新聞ノ外無之「エル、ポエブロ」ナル政府機関新聞ノ如キハ一個ノ虚説ニ過キザルモノト認ムルニヨリ一切ノ記事スラ掲載セザル旨ヲ宣言セル次第ナリシガ同日拙電第一四号所報ノ如キ当国外務大臣ノ宣言アリ加フルニ東京電報トシテ閣下ノ御声明等アリタル為メ翌日ヨリ諸新聞乃至一般ノ形勢頓ニ鎮静四日以後ニ於テハ独逸外相ノ議會ニ於ケル説明要領、幣原次官ノ聯合通信社員ニ対スル談話及ビ「ジャンペン、タ イムス」社説ノ要領其他米國新聞記事ノ電報等概シテ独逸ノ浅薄ナル計画ヲ認識セシムベキモノノ外本件ニ関スル記

été d'une correction limpide.

Allié de l'Angleterre, le Japon devait naturellement se ranger à ses côtés au mois d'août 1914. Mais il fit davantage. Après avoir chassé les Allemands de Tsingtao et détruit leur flotte du Pacifique, il a adhéré au pacte de Londres du 5 septembre 1914. Il a transformé ainsi une alliance avec l'un des belligérants en alliance avec le groupe de la Quadruple Entente. Il s'est associé complètement à cette dernière. Et cette association n'a été platonique ni matériellement ni politiquement. Le Japon fournit régulièrement la Russie d'une énorme quantité de munitions; ses usines de guerre, renforcées et augmentées, travaillaient pour le compte de la Russie. De plus, il fait bloc avec nous dans toutes les démarches diplomatiques. Persuadé que la victoire complète sur la Germanie est nécessaire pour assurer le repos de l'Extrême-Orient aussi bien que celui de l'Occident, il est résolu, lui aussi, à poursuivre la lutte jusqu'au bout quoiqu'il n'ait pas d'avantages spéciaux à en retirer. Il a donc signé sans hésitation les réponses de l'Entente aux prétendues offres de paix des Germano-Touraniens et du président Wilson.

事電報ヲ見ザルニ至リ候

而シテ別紙切抜ノ仏語新聞 (Le Courrier du Mexique) ハ在當地仏国公使館及ビ仏人社会ノ機関新聞ニシテ現戦争ニ於ケル日本ノ地位及対米關係ニ関シ閣下ノ帝國議會ニ於ケル演説ヲ引証シテ独逸計画ハ既ニ根底ヨリ破壊セラレ居ルコトヲ論シ居ル点一読ノ価値アリト存候尤モ末段ニ引証セル在米大使ノ声言ナルモノハ當地新聞電報ニハ見ハレズ該論說中ニノミ見タルモノニ有之為念申添候 敬具

(附屬書)

三月三日附仏語新聞“Le Courrier du Mexique”ノ論說切抜

le 3 mars 1917.

Bulletin du Jour

Si le plan allemand d'alliance germano-mexico-japonaise n'avait pas grand'chance de réussite au Mexique, il en avait moins encore au Japon.

Il faut vraiment avoir la mentalité boche: n'avoir aucune idée de ce qu'est la foi à la parole jurée; il faut avoir la félonie dans le sang pour croire que toutes les autres nations ont de leurs devoirs internationaux une conception pareille à celle d'un chancelier allemand.

L'attitude du Japon depuis le début de la guerre a

Dernièrement, le 23 janvier, le ministre des Affaires Etrangères du Japon, M. Motono, dans un grand discours à la diète japonaise, affirmait solennellement la solidarité du Japon à la cause commune des Alliés. Et il insistait particulièrement sur la cordialité des rapports du Japon avec les Etats-Unis, disant:

“Vous savez que le Japon a toujours tenu à conserver avec le gouvernement et le peuple américain les relations les plus sincèrement amicales. Si, parfois, il y a eu de légers nuages qui ont, tant soit peu, obscurci ces relations, les nuages ont été généralement dissipés par la bonne volonté commune des deux gouvernements.

“Il y a certaines questions sur lesquelles les deux gouvernements ne peuvent pas être d'accord, cela arrive même entre des pays alliés. Cependant, lorsqu'on envisage les questions les plus épineuses loyalement et franchement, avec la volonté de les résoudre d'une manière amicale et conciliante, on trouve sûrement à s'entendre. C'est cette voie que les deux gouvernements ont toujours suivie à la grande satisfaction de nos deux pays.”

Ces déclarations ruinaient déjà de fond en comble les espérances nourries à Berlin de se servir du Japon comme une machine de guerre contre les États-Unis.

Sans doute, il y a entre ces deux puissances des sujets d'une extrême délicatesse et il est infiniment probable que le XXe siècle verra le choc entre ces deux impérialismes, — mais la guerre européenne a mis une trêve à ces querelles asiatiques. L'ambassadeur du Japon à Washington ne disait-il pas textuellement cette semaine: "En cas de guerre avec l'Allemagne, les États-Unis peuvent être assurés que loin de leur créer des difficultés, le Japon les aidera dans toute la mesure de ses moyens."

Diplomatie teutonne, pauvre diplomatie!

Faut-il que l'Allemagne soit bas pour se raccrocher à des planches aussi pourries que celle-là!

九九二

三月五日

在米国佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

独逸ノ对墨策謀ニ関シ日本政府ノ明確ナル態

度ヲ称揚シ各紙論評ノ件

第八一号

(三月六日接受)

往電第七一号独逸政策ノ曝露ハ米国人一般ヲシテ日本ノ真意ヲ諒得セシムルノ好機ヲ供シ当地新聞紙ハ当館ノ説明等ヲ引用シ從來日本ノ陰謀トシテ噂セラレタル事件ハ総テ独逸ノ画策ニ淵源スト謂フモ可ナラムト云フカ如キ論調ヲ洩スモノ多カリシカ閣下及次官ノ言明ハ三日及四日ノ新聞紙ニ掲載セラレテ益々右ノ点ニ付一般ノ注意ヲ喚起シ連日本件ニ関スル論文ヲ掲クル新聞紙多ク日本ノ誠実ヲ徳トシ日本カ好機ヲ逸セズ更ニ日米親交ノ増進ヲ図ラムトスルノ努力ヲ称揚シツアリ独逸国外相カ在墨公使宛発訓ノ事実ナルヲ陳ヘ然カモ斯カル政策ハ必要ニ備フル已ムヲ得ザルノ途ニシテ決シテ米国ニ対シ非友誼的ノ意志ヲ有スルカ故ニアラズ云々ト語レリトノ三日附伯林電報到着シ又墨国政府ニ於テハ外務大臣カ本件申出ヲ受ケタルコトナント云ヘル以外其ノ態度ニ付未タニ何等明確ナル言明ヲナサザルカタメ帝国政府ノ態度ハ一層ノ好影響ヲ生シツツアリ本使ニ対シ直接之レカ奨励ノ意ヲ表スルモノ多シ

九九三

三月五日

在伊国伊集院大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

墨国及日本引入陰謀ニ関スル独逸側情報報告

ノ件

第三三号

(三月八日接受)

当地イデア、ナチヨナレ在ベルン通信員ノ報道ニ依レハ今回独逸ノ墨国及日本引入レ陰謀事件ニ関シ独逸新聞ハ大体ニ於テ其拳ノ失敗ヲ悲觀スルモ是レ独逸外交ノ不得已ザルニ出テタリトナシ寧ロ政府ニ同情ヲ表セリ尚ホ独逸側ヨリ精探スル所ニ拠レハ独逸ハ先ツ協商側ニ対スル米国ノ武器供給ヲ止メシメント企テ千九百十五年ノ始メヨリベルンストルフ大使ハ贈賄又ハ新聞買収ヲ行ヒ極力尽力シタルモ四囲ノ事情ハ漸次ニ変化シ米国汽船ノ遭難米人ノ生命財産等ヲ失フニ至ルヤ米独關係大ニ冷淡トナリ独逸ヲ憎惡スル念高マレリ故ニ前記大使等ノ運動ハ絶望ノ已ムナキニ至レリ玆ニ於テ独逸ハ墨国誘引策ヲ講シ米墨戦争ヲ惹起セシメント計リ一方玖馬ニ騒乱ヲ起サシメ米国ヲシテ自己ノ軍備ヲ急ナラシメ対協商軍器供給ヲ手薄ナラシメントシ且墨国ヲシテ決然該陰謀ヲ成功セシムルニハ墨国ノ從來尊敬スル日本ヲ引入レシムルヲ肝要トセリ且下日独ハ敵国ノ關係ナルニ拘ハラス独壤人ノ日本ニ居留スルモノ依然トシテ多ク彼等ハ各種ノ方面ニ勢力ヲ(脱)ラルト共ニ東京ノ上流社会

一五 独国ノ日墨独同盟策謀關係一件 九九四

ト關係ヲ保チ何等ノ不安ナク彼等ノ行動ヲ發展セシメツツアリ彼等ノ目的ハ日本対協商ニアラズシテ日米戦争誘発ニアリ既ニ彼等ハ日本ノ或新聞ヲ説服シ得タルモ日本政府部内ヲ動カシ得ズ遂ニ今日ニ至レリ又二月一日ヨリ独逸ハ潜航艇ノ大活動ヲ開始シ米独戦争ヲ賭シタルハ日墨両方面ヨリ独逸ニ有利ナル報告アリタルニ依ルト伝ヘラル本陰謀曝露ノ後独逸政府ハ狼狽ヲ極メ近ク陰謀弁明書ヲ発表スヘシト云フ(露都經由三月六日前一〇、五〇、第一九七号)

九九四

三月六日

在瑞西国三浦公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

独外相ノ对墨同盟提議ニ関スル議會答弁ノ件

第四七号

三月五日チンメルマンハ議會ノ委員会ニ於ケル質問ニ答ヘテ曰ク米国ト戦争破裂ノ場合ニ備フルタメ墨西哥ニ対シ同盟ヲ求メタルハ自然ニシテ正当ノ準備ナリ米国カ発表シタルタメ訓令ノ日本ニモ知レ渡リタルコトハ敢テ遺憾トスル所ナラズ訓令ハ現在執リ得ベキ方法中最安全ナル方法ニテ發送セラレタリ米国カ如何ニシテ其内容ヲ知り得タルカ又何人カ秘密暗号ヲ華盛頓ニ漏シタルカハ全ク不明ニ属ス今

九九九

回ノ事ハ災難ニハ相違ナキモ祖国ノ利益ノタメ必要ノ行動
タリシコトハ毫モ渝ル所ナシ又之ニ対シ米国人ハ激昂スヘ
キ權利ヲ有セザル筈ナリ

九九五 三月六日

在ロサンゼルス大山領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

日墨独同盟計画ニ関シ日本ヲ警戒ノ要アリト
セル各紙論調報告ノ件

第三号

(六月七日接受)

独逸ノ対米日墨独同盟計画ニ関シ当地「タイムス」ハ三月
四日本件ニ関スル日本政府ノ言明ハ或ハ東洋外交一流ノ打
消ニハアラサルヤ日本カ市民権問題位ニテ米國ニ対シ開戦
スヘシトハ思ハサレト独逸カ今回ノ挙ニ出テシハ日本ヨリ
何等暗示ヲ得タルタメニアラサルナキヤヲ疑ヒ万一日本カ
独逸ノ提議ヲ容レタル場合当地ノ蒙ムルヘキ損害ニ論及シ
テ沿岸防備ノ必要ナル所以ヲ説キ「エキザミナー」ハ二日日
本カ米國ニ対シ危険ナルコトヲ否認シ居リタル短見者流モ
今ヤ之ヲ是認スルナルヘシ今回独逸ノ提議ノ如キコトハ実
現セストハ謂フヘカラス一朝其實現ヲ見ルトキハ太平洋布
哇比律賓ハ日本ノ有ニ帰スヘク其ノ結果単ニ米國ト謂ハス

スル声明ニ有之其内容ハ右拙電記述ノ事情ト対照シ幾分参
考ト可相成様被存候ニ付或ハ既ニ御承知ノ事カトモ存候得
共右為念翻訳ノ上別紙ノ通り及御送附候 敬具

(別紙)

大正六年三月六日附倫敦電報(聯合通信社取扱)

「エル、ウニヴェルサール」新聞掲載

独逸外務大臣声明和訳文

独逸帝國ガ目下協商諸國ニ対シテ繼續シ居ル戦争ニ関シ曩
ニ墨西哥ニ向ツテ為シタル同盟提議ノ發覺セラレタル事ハ
全独逸國ヲシテ痛ク驚愕セシメタル所ニシテ、同國ノ政界
ハ之レニ対シ種々雑多ノ評判ヲ試ミタリ
外務大臣「チムメルマン」氏ハ議會ニ臨ミ左ノ声明ヲ為シ
タリ

墨西哥國ニ送リタル公文ハ暗号ヲ以テ認メタルモノナリ
而シテ米國政府カ如何ニシテ之ヲ入手シ又解訳セシカハ
自分ノ知悉セザル所ナリト雖モ斯ル事件ノ發生セシハ遺
憾トスル所ナリ、尤モ自分ハ本件ニ関シ何等後悔スル所
ナシ、蓋シ独逸帝國ハ該提議ヲ為スニ方リ樂觀的期待ヲ
抱持シ居リタレバナリ

西洋文明ハ黄色人種ノ蹂躪スル所トナルヘシトテ戦備充実
ノ必要ヲ力説シ同日「トリビュン」ハ日本ノ本件ニ関シ独
逸ヨリ何等下相談ヲ受ケタルコトナカルヘク又本提議ニ応
スルコトナカルヘシト云フ國務卿ノ説ニ賛同シ從來日本ノ
態度ノ正当ナルコトハ之ヲ認ムルモ日本ノ有力ナル新聞紙
中ニハ日英同盟廢棄説ノ行ハレ居ル事実モ有レハ米國ノ立
場トシテハ健全ナル陸海軍備ノ必要アリト結論セリ

九九六 三月七日

在墨國太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

独墨同盟提議ニ関スル独逸外務大臣ノ声明電
文訳文送附ノ件

機密公第六号

(四月九日接受)

大正六年三月七日

在墨

臨時代理公使 太田為吉(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

独墨同盟ノ件ニ関シテハ曩ニ拙電第一四号ヲ以テ及報告置
候次第有之候処本日当地「エル、ウニヴェルサール」新聞
ノ掲載セル聯合通信社倫敦電報ハ独逸外務大臣ノ本件ニ関

日本ハ米國新聞ニ拠リテ独逸ノ提議ヲ知リタリ、何トナ
レバ墨西哥政府ハ未ダ本提議ノ成行ヲ日本ニ知ラシムル
ニ至ラザリシノミナラズ墨西哥政府ニ於テモ今ヨリ少シ
以前迄ハ之ヲ承知シ居ラザリシガ故ナリ

九九七 三月七日

在シカゴ來栖領事ヨリ
本野外務大臣宛

日独及墨國同盟計画ニ関スル切抜送付ノ件

附屬書

三月六日附「シカゴ、ヘラルド」紙切抜
寺内首相独逸ノ陰謀ニ関スル「ヘラルド」紙質
問ニ回答ノ件

第二四号

(四月十日接受)

大正六年三月七日

在市俄古

領事 來栖三郎(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿
昨六日当地発刊「シカゴ、ヘラルド」紙ハ日独及墨國同盟
計画ニ対スル寺内首相ノ宣言ヲ掲載シ右宣言ニ関シ本日更
ニ當國々務卿並ニ二三政治家ノ意見ヲ發表致候間本件ニ関
スル「シカゴ、デーリ、トリビュン」社説ト共ニ御参考迄
(註)

別紙切抜及進達候 敬具

註 「シカゴ・デリー・トリビューン」社誌省略

(附屬書)

三月六日附「シカゴ・ヘラルド」紙切抜
寺内首相独逸ノ陰謀ニ関スル「ヘラルド」紙ノ質問ニ回答ノ件

Chicago Herald March 6th 1917.

Japanese Premier Denounces German Plot

as Repugnant

Immediately following the publication of the German plot to form an alliance with Japan and Mexico against the United States the Herald cabled to Count Terauchi, prime minister of Japan, and asked for an official expression of opinion from the mikado's government.

Yesterday, through the courtesy of the Japanese embassy in Washington, the Herald received the following cablegram:

Tokio, 9:45 a. m.,

5th March, 1917.

Editor, the Chicago Herald.

Replying to your request:

(Signed) Count Terauchi,
Prime Minister of Japan.

九九八 三月七日 在瑞西国三浦公使ヨリ
本野外務大臣宛

独逸ノ対墨同盟提議ニ関スル「フランクフル
テル、ツァイツンク」ノ論評報告ノ件

公第一一六号 (四月二十六日接受)

大正六年三月七日

在瑞西

特命全權公使 三浦弥五郎(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

独逸ノ対墨同盟提議ニ関スル「チンメルマン」ノ訓令米
国側ヨリ摘発セラレ引続キ独逸側ノ弁明公表セラレタル後
独逸諸新聞ハ概ネ「チンメルマン」ノ採リタル手段ハ当然
且正当ノモノナリトノ弁護の批評ヲ掲ケタルガ三月五日
刊行「フランクフルテル、ツァイツンク」ハ稍出色ノ反
対意見ヲ掲載致居候ニ付右訳報申進候 敬具

(別紙)

独逸外務大臣カ独逸墨西哥日本間ニ妥協ヲ試ミタリトノ敵

The revelation of Germany's latest plot looking to a combination between Japan and Mexico against the United States is interesting in many ways.

We are surprised not so much by the persistent efforts of the German to cause an estrangement between Japan and the United States as by their complete failure of appreciating the aims and ideals of other nations.

Nothing is more repugnant to our sense of honor and to the lasting welfare of this country than to betray our allies and friends in time of trial and to become a party to a combination directed against the United States, to whom we are bound not only by the sentiments of true friendship but also by material interests of vast and far-reaching importance.

The proposal which is now reported to have been planned by the German foreign office has not been communicated to the Japanese government up to this moment, either directly or indirectly, officially or unofficially, but should it ever come to hand I can conceive no other form of reply than that of indignant and categorical refusal.

国側通信ニ付在伯林責任官庁ハ吾人ノ期待ニ反シ詳細ナル説明ヲ与ヘス是ニ於テ華盛頓ヨリ来ル報道ハ真正ナルモノニシテ又外務大臣「チンメルマン」ハ彼ノ所為ナリトセラルル書束ヲ事実作成シタリトノ思想ニ馴致セラレサルヲ得サルコトナレリ而シテ該書束カ如何ニシテ吾人ノ敵タル米国大統領ノ手ニ入リタルカハ説明セラレス前大使「ベルンストルフ」カ自筆ニテ伯林發電報ノ写ヲ作成シ別仕立ノ使者ヲ以テ墨西哥駐在独逸公使「エッケルト」ニ送致セントシタル所該使者ハ其書面ヲ見失ヒ米国政府ノ手ニ入リタリトノ説明ハ俄ニ信スヘカラサルナリ何等カノ不正カ此間ニ存スルハ固ヨリノコトニテ如何ニシテ此書面ヲ入手スルニ至リタル歟ハ米国人モ亦説明セサルヘシ独逸官憲カ斯ル重要書類ヲ正当ナル方法ヲ以テ送達スル手段ヲ取ラザリシコトハ最モ遺憾トスル所ニシテ斯ル不意ノ出来事ハ吾人ノ政策ニ対シ大ナル損害ヲ加フルコト有リ得ヘシ如何トナレハ何人ト雖独逸カ外国ト交渉ヲ開始スルカ如キ場合ニ於テ幾分ナリトモ秘密事項ニ参与セル独逸人全体ノ信用ト熱誠トヲ疑フコトトナル可ケレハ也 如斯該書類カ公表セラレタルコトハ悲ムヘキコトナルモ尚ホ該書類記載ノ政策カ価

値アルモノナリヤ否ヤノ問題ヲ決定スルモノニ非サレド如斯場合ニ於テハ秘密ノ確保力第一ニ必要ナルコトナルニヨリヨシ当初ノ見込ニテハ安全ニ送致シ得可カリシニ不幸見込違ヒトナリタルヨリ起リタル事ナリトスルモ吾人ハ実行者及其指揮者両方面ニ欠陥アリタルコトヲ指摘セサル可カラス

「チンメルマン」ハ在墨独逸公使ニ送ラントセル訓令ニ於テ独墨間ニ同盟ヲ締結シ米国力独逸ニ対シ宣戦スル場合ニハ両国ハ共同シテ米国ト戦ヒ又共同シテ和ヲ講スルコトヲ提議セリ戦争カ如何ナル結果ヲ墨西哥ニ齎ラスヘキカハ明確ニ示ササルモ該書類中往年墨西哥カ米国ノ為メニ喪失セル「テキサス」「ニューメキシコ」「アリゾナ」ヲ恢復セシムルコトヲ了解セラルヘシトノ語句アリ尚ホ又右訓令ニヨレハ同公使ハ墨国大統領ヲシテ自己ノ発意ニヨリ日本ト協議シ同国独逸間ノ講和ヲ調停シ日本ヲ味方ニ惹キ附クル様仕向ケサルヘカラス而シテ無制限潜水艇戦ニ依リ独逸及其同盟国ハ英国ヲシテ数ヶ月間内ニ講和セシムルコト可能ナルヲ以テ無制限潜水艇戦ハ墨国大統領ヲ説得スヘキ実証タル可キモノナリ然シテ「チンメルマン」氏カ斯克ノ如ク

治者タルカ如キ觀アルモ之ヲ出ツルニ於テハ統治ノ実力ナク又同国内多数ノ僭望者アリテ各々一部ヲ治メ「カラランザ」ノ勢力ヲ凌クモノサハ尠ラスサレバ「カラランザ」氏ノ戦争参加ヲ以テ直ニ米国人ニ多大ノ損害ヲ与ヘ吾人ニ多大ノ利益ヲ与フヘシト速判スルヲ得ス而シテ墨国大統領ヲシテ独逸ニ心ヲ傾ケシメ得ル見込アリタルヤハ吾人ノ知ラサル所ニシテ恐ラクハ伯林外務省モ亦知ルコト能ハサリシ所ナルヘシ殊ニ又日本政府ヲシテ目下ノ同盟關係ヲ脱シ吾人ニ味方セシメ得ル最小ノ見込ニテモ過去及現在ニ於テ存在セリヤ吾人ハ之ヲ知ラス

日本ハ目下米国トノ潜在的葛藤ヲ今次戦争中ニ解決セントノ意図ヲ有セサルコトハ過去二年間ノ態度之ヲ証ス斯クノ如キ政策カ日本ノ将来ニ資スルヤ否ヤハ別問題ニシテ或ハ将来ノ同国政治家ヨリ弁難攻撃セラルルコトアルヘシ但シ吾人ノ看取セサルヘカラサルモノハ以上ノ点ニ非スシテ現在ノ日本当局者カ何ヲ為ス歟ニアルカ吾人ハ日本ニ於テ一転化来ル可シトナス推測力確証ヲ有シタルコトヲ疑ハントスルモノナリ若シ斯ル事態アリタリトセハ日本政府ニ対シ「カラランザ」氏ノ勢力ヲ仮ル迄モナク日本トノ交通上既存

新潜水艇戦ヲ評価シタリトセハ吾人ハ近時彼レカ独逸及外国ノ訪問者ニ対シテ潜水艇戦ノ結果戦争ハ夏中ニ結了スヘシト云ヘル言ニ徴シ其衷心ヨリノ見解ニ出テタルコトヲ認ム如何トナレハ責任アル政治家ハ心中真実ナルコトヲ確信セサル限り目前ノ事柄ニ付予言セサルコト当然ナレハナリ然リト雖墨西哥及日本カ米国ニ対シ干戈ヲ執ル場合ニ於テ二三箇月間ニ勝利ヲ博スルコトハ不可能ナリ果シテ然リトセハ戦争速ニ結了スヘシトノ信念ト独逸カ米大陸ニ於テ負担スヘキ新且大ナル義務トハ如何ニシテ之ヲ調和スヘキ歟吾人カ若シ「カラランザ」ニ対シ戦争及講和ヲ共ニスヘキコトヲ約束セリトセハ又独逸ハ墨西哥ヲ見棄テサルコトニ付信ヲ守ルヘキ筈也此ヲ以テ独墨間ノ新關係ハ遂ニ甚タ混乱セル「カラランザ」氏ノ統治ヲ支持スルカ為メ緩慢ニシテ或ハ數年間ニ渉ルヘキ戦争ヲ惹キ起ス結果トモナルヘシ此レ米国軍隊モ兎ニ角其本土ニ於テハ輕視スヘカラサルヲ以テナリ「カラランザ」氏ヲ以テ「ウィルソン」カ米国ニ於ケルカ如キ意味ニ於ケル元首トナスハ誤ニシテ吾人ノ聞ク所ヲ以テスレハ「カラランザ」ハ從來ト同シク分裂セル共和国中一小部分ノ首長タルニ過キス此レヲ以テ墨国首府ニ於テ統

ノ關係ヲ利用シ得タリシナルヘシ由來一計画ノ価値ハ該計画ノ本質ニヨリテ定ムヘク其實行カ失敗ニ歸シタリトスルモ熟考セラレタル計画ノ賞讃セラルヘキハ当然ノコトナルカ吾人ハ本計画ノ立案者カ独逸国民ノ歡迎ヲ要求シ得ヘシトハ思考セス

何人モ未タ何等ノ批評ヲ下サザリシ以前(独逸ニテハ本計画ニ関スル米国側通信ノ掲載ニ先チ外務省ノ弁明ヲ公表記載セリ)外務省ハ三月三日ノ紙上ニ掲載セルカ如キ公報ヲ以テ其態度ヲ弁護セリ然レトモ此弁解ニハ最も重要ナル点即日本ニ対シ講和或ハ多分同盟ヲ求メントシタルコトハ沈黙ニ附シタリ政府ノ政策ハ或新シキ敵国ノ参加セントスル場合旧來ノ敵国ニ新同盟ヲ求メントスルハ權利ニシテ又義務ナリトスル当然ノ事理ニヨリ説明セラレタルカ如此事カ吾人ノ權利ニシテ義務ナルコトハ何人モ疑フヲ得サル所ナリ唯決定セラルヘキ問題ハ其撰ヒタル手段カ有益ナルモノナリシヤ又ハ重大ナル損失ヲ醸スカ如キモノナラサリシヤニアリ帝國ノ施設ハ其結果ノ遠ク及フ所ヲ考ヘ戦争中及戦争終了後ニ如何ナル影響ヲ及ホス歟ヲ測リテ決定セラルヘキナリ若シ米国人ニ対シ墨西哥境ニテ難件ヲ惹起スカ如キ

コトアランカ米国人ニトリテハ甚タ不愉快ナルコトナルヘクシカモ如斯事カ独逸ノ戦争及講和ノ大局ニ対シ貢獻スル所アルヘシトハ立証シ難キコトナリ殊ニ独逸ノ得ント努ムヘキハ偉大且ツ大規模ノ利益ナラサル可ラス吾人ハ墨西哥ノ価値ヲ輕ンセサル様注意スヘキハ勿論ナリト雖米國ノ金力ハ往々墨西哥ノ權力家ニ対シ意外ノ効果ヲ奏スルコトヲ忘ルヘカラス米國人ハ他國ノ領土ヲ侵害スルコトハ困難トスル所ナランモ彼等ニ抵抗スル力ニ対シ之ヲ防禦スルコトハ其能クスル所ナルヘシ此レヲ以テ「カランザ」ヲ戦争ニ参加セシムルコトハ其尤モ成効シタル場合ト雖「ウォルフ」通信社ノ云ヘリシ如ク「ウィルソン」ノ宣戰ヲ思ヒ止マラシムルコトトハナラサリシカ如シ要スル所独逸ノ墨西哥ニ対スル提議カスニ先チ米國大統領ノ知ル所トナリタルハ独逸ニ於ケル或人々ノ考フル如ク米國トノ大戦争ハ如何ナル場合ニ於テモ幸福ナリトノ信念ヲ有スルニハ格別吾人一般ニハ何等ノ利益ヲ齎サザルカ如シ

九九九 三月八日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛

独逸ノ日、墨、独同盟策暴露事件及其日米関

ノ發意トシテ日本ト交渉ヲ開始シ同國カ早速此計畫ニ参与スル様申入レ又同時ニ日独兩國ニ仲裁ノ勞ヲ執ルヘキ趣ノ申入ヲ為ス様希望スル旨申添ラレタシ
尚ホ墨國大統領ニ対シ無慈悲ナル潛永艇戰ノ行使ハ数ヶ月内ニ英國ヲシテ和ヲ講セシムルニ至ルノ見込ナル旨注意シ置カレタシ

ツインメルマン
(附屬甲号)

右文書ノ公表カ前夜十一時ナリシ為翌三月一日朝刊ニ論評ヲ載セタル新聞紙ハ殆ト無之カリシモ唯紐育「タイムス」ハ逸早く斯ノ如クシテ独逸カ自暴自棄ノ情況ニ在ルハ火ヲ賭ルカ如シ特ニ日本ヲ牽込マムトセルニ至テハ其策ノ拙劣嗤フニ勝ヘタリト云ヒ賢キ日本政府ハ最近露國ト同盟ヲ結ビ支那ニ於ケル發展ノ自由權ヲ得漸次極東ノ覇者タラムコトヲ翹望シツツアルノミナラズ対独戰爭ニ於テ露國其他聯合諸國ト離ルヘカラザル關係ニ在リ又米國ト日本トハ今ヤ友情敦厚ニシテ唯極西部諸州ニ於ケル在留日本人ノ待遇ニ付蟠リノ存スルアル耳云々ト論シタリ
同日午後及翌二日ノ新聞紙モ大体同趣旨ノ論評ヲ為スモノ

係二及ホセル影響報告ノ件

公信第三二号(機密) (三月二十九日接受)

客月二十八日午後十一時当國國務省ハ独逸國外務大臣ツインメルマンヨリ前駐米独逸國大使ベルンストルフ伯ヲ經テ在墨独逸國公使フォン、エックハルト Von Eckhardt ニ与ヘタル去一月十九日附左記ノ訓令ヲ聯合通信社ノ手ヲ經テ公表セリ

伯林 一九一七年一月十九日

二月一日吾人ハ無制限潛水艇戰ヲ開始セムトス但之ニ拘ラズ米國ヲシテ其中立ヲ維持セシムルニ最メムコトヲ欲ス

若此術策ニシテ不成功ニ帰スルトキハ協同シテ戰爭ヲ行ヒ協同シテ平和ヲ締フヘキコト、吾人ハ一般財政上ノ援助ヲ与フヘク墨國ハ其曾テ喪ヒタル領土即チ「ニュー、メキシコ」「テキサス」及「アリゾナ」ヲ克復スヘキコト、尚ホ詳細ハ貴官ニ於テ協定セラルヘキコトヲ基礎トシテ墨國トノ同盟締結ヲ交渉スルコトト致度シ

貴官ハ米國トノ開戰確定スルヤ極々秘トシテ墨國大統領ニ対シ右ノ趣ヲ通知セラルヘク又同大統領ニ於テ其自己

多ク即チ独逸ノ惡辣ナル術策ハ要スルニ独逸現況ノ如何ニ困難ナルカヲ立証スルモノトシ從來行ハレタル諸種日本ノ対米陰謀等ノ浮説カ独逸側ノ捏造ニ出デタルモノ多キヲ見ルヘシ等ノ言説ヲ見タリシカ唯独字新聞其他一部ニハ尚ホ右文書中「無慈悲」ナル語ヲ見タル処ヨリ觀察シテ其果シテ真正ノ文書ナリヤ否ヤニ疑ヲ挿ミタルモノモ有之タリ然レトモ此点ニ就テハ「ロッヂ」上院議員ノ發案ニ係ル上院決議書ヲ以テ本件ニ關スル報道公表方ヲ大統領ニ請願シ大統領ハ之ニ応ヘ米國政府ハ該公文書カ真正ノモノナルコトノ証拠ヲ入手シ居レリ而シテ右証拠ヲ入手シタルハ今週中(二月二十五日乃至三月一日)ノ出来事ナリ但目下右証拠ヲ公表スルハ公益ニ害アリト思考ストノ國務長官ノ報告ヲ發表セルニ依リ(附屬乙号)最早疑ノ余地ナキニ至リ次テ三日独國外相カ右公文書ノ真正ナルヲ承認シ且独逸國カスカル手段ニ出デタルハ米國ト開戰セザルヘカラザルニ至ル場合ヲ予想シテ為セル必要ノ予備の行為ニシテ決シテ米國ニ対シテ非友誼的感情ヲ懷クカ故ニ非ズト公言シタルニ依リ事情愈々明白トナレリ但米國政府カ如何ニシテ右文書ヲ入手シタルヤニ就テハ前駐米独逸國大使ベルンストルフ伯ノ

乗船フレデリック八世号ガ「ノヴァ、スコシア」州「ハリファクス」ニ寄港中英官憲ノ手ニ入りタルヲ更ニ英国側ヨリ米国政府ニ提供ニ及ヒタルモノナリトノ説アルモ亦米国側ニテ独逸ノ暗号ヲ有シ居リ自ラ解説シタルモノナリトノ説モアリ明カナラズ

尚ホ本件曝露ニ伴ヒテ世人ノ注目ヲ惹起シ来レルハ独逸カ米国ノ注意ヲ中南米方面ニ牽制スルノ策ヲ繞ラシ居タルノ事実ナリ客月中玖馬国東部ニ於テ前大統領ゴメス *Jose Miguel Gomez* ヲ首領トスル革命勃発シタルモ亦独逸側ノ指金ニ出デタルモノナリト云ヒ（公往第五二号参照）其他「サント・ドミンゴ」「ハイチ」等ニ於ケル近時ノ不安定状態モ皆独逸側ノ活動ニ因縁セリト云フカ如キ報道紐育「トリビューン」紐育「タイムズ」紐育「ヘラルド」等ニ依リテ伝ヘラレタリ

本件ヲ公表シタル米国政府ノ真意ハ独逸政府ノ対米態度ヲ米国民一般ニ周知セシメ挙国一致ノ実ヲ挙クルニ資シ特ニ議會ニ繫属中ナリシ商船武装法案ノ通過ヲ促進セムト欲シタルニ依ルコトト思考セラレ（往電第七一号参照）又独逸カ墨国ヲシテ日本ニ申入レヲ為サシメムトシタルハ果シテ

レリ云々ト述ヘ居レリ而シテ新聞論調中最モ目立チタルハ從來ハ我國ノ態度ニ付寧ロ曖昧ノ言説ヲ而已爲シ居リタル紐育「サン」カ掲載セル往電第八九号所報ノ極端ナル好日論ナリ（附属丁号）唯例ノ紐育「アメリカン」ハ尚ホ日、墨、独提携ノ必スシモ杞憂ノミニ非ザルヲ述ヘ国防充実ヲ提唱シ居ルモ素ヨリ取ルニ足ラズ

尚ホ本件曝露以來私人トシテ直接本使館員等ニ向ヒ慶賀奨励ノ辞ヲ寄スルモノ少ナカラズ或ハ自分ハ官吏ナルカ故ニ署名スルヲ得ザルモ貴大使館言明ノ趣旨ノ崇高ナルニ動カサレ日本国民ノ偉大ナルニ感シ米国民特ニ西部諸州住民ハ此精神ヲ以テ甫メテ教フヘク日米兩國ハ将来単ニ永劫ノ友国ナルノミナラズ相愛ノ国民タルヘキヲ夢想セザルヲ得ザル心地セリ云々ノ書翰ヲ寄スルモノアリ其他前 *Washington Southern Bank* 頭取 *J. Selwin Tait* 氏ハ帝國ノ態度ヲ以テ日本武士道ノ発露ナリト賞讃シ又故「ハミルトン、メービー」氏居住地タリシ「ニュー、ジャージー」州「サンミット」市々長ヨリハ此好期ヲ利用シテ屢々日米阻隔ヲ計ル者ノ好餌トセラルル日墨關係等ニ関シ日本政府ニ於テ明確直截ナル宣言ヲ發セラレテハ如何等申越セリ

日本ヲ味方ニ牽付ケ得ルモノト思考シタルカ為ナリヤ將タ寧ロ「カランザ」ノ虚栄心ニ訴ヘムカ為添言シタルモノナリヤ不明ナリト雖モ兎ニ角右事件カ偶然ニ日本カ米国ニ対シ何等禍心ヲ包蔵セザルコトヲ明カニスルノ機会トナリタルハ申迄モナク前記独逸外相ノ本件ニ対スル態度及墨国政府カ其外相ノ口ヲ通シテ僅カニ本件申入ヲ受ケタルコトナシト云ヘル以外何等明確ナル言明ヲ為サザルノ事情ハ我公明ノ態度ト对照セラレテ特ニ好感ヲ増シ前記ノ如ク諸新聞紙ハ好日の論評ヲ掲クルモノ多キノミナラズ二日ノ新聞紙ハ不取敢発表シタル当館ノ言明書（附属丙号）其他紐育矢田総領事任紐育正金銀行支配人三井支店長等ノ所言ヲ目星シキ場所ニ載セ又当国國務長官カ日本ハ全然本件ヲ承知セザルヘク又其敵ヨリノ申入ニ傾耳スルコトナキヲ信ズト云ヘルヲ掲ケ三日、四日以後ハ閣下、次官及首相ノ言明相踵テ紙面ノ要部ニ現ハレ近時荐リニ好日の記事論説ヲ掲ケ居レル紐育「ヘラルド」ハ日本ハスカル申出デニ対シ思ハセ振（*intimated receptiveness*）ダニ示シタルコトナシ從來反日ヲ事トシタル当国黄色新聞紙スラ日本政治家ハ今回ノ如キ弄ニ陥ルカ如キ黄口児ニ非ズト云ハザルヘカラザルニ至

如斯今回ノ事件カ米国人ニ対シ一方ナラサル感激ヲ与ヘタルハ一ハ時節柄ナルニ依ルコト勿論ナルモ亦一ハ米国人カ一般ニ如何ニ日本ノ心事ヲ諒解シ居ラザリシカラ証スルモノニシテ閣下初メ帝國政府ノ声明カ好ク時宜ニ適シ米国人ノ心裡ニ存セル我國ニ対スル疑團ノ一端ヲ一掃シ得タルハ本使ノ本懐トスル所ナリ

右本件ニ関スル往電説明旁關係書翰及新聞切抜相添報告申進候 敬具

註 添付ノ書類省略

一〇〇〇 三月九日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

墨独同盟計画ニ関シ日本政府ノ態度ヲニュー

ヨーク・サン紙稱揚ノ件

第九八号

往電第八一号ニ関シ其後モ首相並ニ閣下ノ言明統々記載セラレ好日の論評諸新聞ニ散見シ居レルガ其内特ニ目立チタルハ紐育「サン」ガ大統領ハ其就任演説ニ於テ米國々運ノ前途ニ暗キ陰影ノ横ハレルモノアリト曰ヘルガ日本ハ其暗キ水平線ヲ破ル一光明ナリ日本政府今回ノ態度ガ日米親交

ニ資スルコト甚大ナルハ「ペルリ」ノ渡航米國ノ日本ニ対スル平等文明國トシテノ承認ノ兩事件ニモ比スルヲ得ベシ公平ノ心ヲ有スル米國人ハ日本ガ独逸ノ画策ニ対スルニ侮蔑瞋恚ノ情ト十分ノ威敵トヲ以ッテシタルヲ看過シ得ザルベシ将来米國ノ煽動政治家邪念政治家ガ日米ノ疎隔ヲ試ミル場合米國人ガ日米國交ノ真義ヲ忘レザランコトヲ希フト云ヘルモノ是也

1001 三月十九日

在墨國太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

墨國ノ中立提議ニハ協賛シ難キ旨米國政府回

答ノ件

第十七号

(三月二十日接受)

米國國務長官ハ三月十六日附書面ヲ以テ墨國ノ中立提議ニ対シ墨國提議ノ精神ハ米國大統領ニ於テモ之ヲ懷抱シ從來平和ノ為ニ努力セシモ此ノ尽力ハ却テ一層戰爭ヲ劇烈ナラシムルノ結果ヲ生シ然モ独逸ハ日墨兩國ヲ誘フテ米國ニ開戦セシメントスルカ如キ異望ヲ企ツルニ至リタル次第ナルヲ以テ如斯キ事情ノ下ニ墨國提議ヲ協賛スルハ米國ノ敢テスルヲ得ザル所ナリトノ趣旨ヲ在米墨代表者ニ送り尚ホ三

月十七日在墨米國大使ヲシテ墨國外相ニ対シ説明ヲ為サンメタル趣ナルガ墨國外相ハ右ノ回答ニ拘ハラズ米大陸中立諸國ヲシテ今後歐洲戰爭ニ与ミセシメザル為メ提議ノ趣旨ニ依リ運動ヲ継続スル考ナル旨聲明セリ

1002 三月三十一日

在瑞西國三浦公使ヨリ
本野外務大臣宛

独墨及日独同盟提議ニ関スル議員ノ質問ニ対スル独逸外相「チンメルマン」ノ答弁報告ノ件

公第四百十三号

(五月十二日接受)

大正六年三月三十一日

在瑞西

特命全權公使 三浦弥五郎(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

三月二十九日独逸帝國議會ニ於テ外務省予算討議ノ際労働社会黨議員ハース述ベテ曰ク墨西哥ニ同盟ヲ提議シタルコトハ独逸ノ対米地位ヲ險惡ナラシメタリ外相ハ如何ニシテカランザ將軍ニ「ニュー、メキシコ」及「アリゾナ」ヲ与ヘント提議シ得タルカト

外相チンメルマン答ヘテ曰ク予ハカランザニ宛テテ書面ヲ書キタルコトナシ予ハ左様ナル突飛ノ精神ヲ有セザルナリ、予ハ最モ確實ト思ハルル方法ヲ以テ墨西哥ニ於ケル吾人ノ代表者ニ訓令ヲ發送シタルノミ、右訓令ガ如何ナル方法ニテ米國人ノ掌中ニ落チタルカハ目下詮索中ニ屬ス、予ハ在墨公使ニ向ヒ米國ト開戦ニ至ル場合ニハ墨國ニ同盟ヲ提議シ且ツ該同盟ニ日本ヲ参加セシムル様勧誘スヘキ旨ヲ命ジタリ、予ハ潜水艇戦ニモ拘ハラズ米國力中立ヲ維持スヘキコトヲ希望スル旨ヲ明白ニ宣言シタリ、右訓令ハ米國カ吾人ニ宣戦ヲ布告シ以テ独米間ニ交戦状態成立ニ至ル迄ハ之ヲ執行スベキモノニハアラザリシナリ、米國トノ關係上右訓令ハ全然誠実ナリシモノト予ハ信ズ、米國ガ全然不正当ナル方法ニテ右訓令ヲ奪ヒ之ヲ發表セザリシナラバカランザハ今日迄尚同訓令ノ内容ヲ知り得ザリシナラン

吾人ノ態度ハ華盛頓政府ノ態度ト比較スレバ一種奇妙ナル对照ヲ呈ス大統領ウィルソンハ毫モ侵略的語調ヲ帶ビザル所ノ一九一七年一月三十一日附ノ吾人ノ公文ヲ得タル後直チニ非常ニ粗暴ナル方法ニテ独米關係ヲ断絶セザルベカラザルモノト信ジタルナリ、吾力大使ハ吾人ノ行動ニ関シ口

頭ニテ精密ニ理由ヲ説明スルノ機會スラ之ヲ有セザリシナリ、斯クシテ米國政府ハ吾人ト商議スルコトヲ拒絕シタリ當ニ拒絕シタルノミナラズ大統領ハ直チニ中立諸國ニ向ヒテ独逸ト國交ヲ断絶センコトヲ勧誘スル所ノ公文ヲ發シタルナリ

苟モ僻見ヲ有セザル以上ハ何人ト雖モ米國政府ノ右ノ行動ガ独逸ニ対スル敵對的態度タルコトヲ看取スルナラン、即チ米國政府ハ未ダ吾人ト戰爭ヲ開始セザル以前ニ於テ早く既ニ全世界ヲ煽動シテ吾人ニ對抗セシメントシタルナリ、ハース氏ハ米國ニ於テ對独反感ノ非常ニ高マリ来リタルコトヲ指摘シタリ、氏ノ言ノ如ク最初ノ程ハ右訓令暴露事件ヲ利用シテ吾人ニ対スル反感ヲ煽動シタルモ時ノ經過ト共ニ暴風雨ハ追々静マリ来リタリ、沈着且ツ穩当ナル政治家等及米國民ノ大多數ハ右訓令其ノモノニハ何等故障ヲ申立ツヘキ程ノ謂レナキコトヲ承認スルニ至レリ、予ハ上院議員アンダーウッドノ宣言ヲ特ニ茲ニ喚起セントス又タイムス新聞モ本件ヨリ多大ノ効果ヲ挙げ得ベキモノトハ認メザリシナリ、世人ハ予ガ墨國及日本ニ着眼シタルコトヲ非難シタリ、墨西哥ハ米國ノ隣國ナリ、若シモ吾人ガ米國ニ対

抗スベキ或ル同盟国ヲ求メント欲スルナラバ第一着ニ勘定ノ内ニ入ルベキハ実ニ墨国ナリトス「ボルフィリオ、デアス」以来墨国ト吾人トノ關係ハ非常ニ親密且ツ信任のナリ又墨国人ハ良キ兵士ナルコトハ人ノ知ル所ナリ之ニ反シ米墨間ノ關係ガ親密且信任のナリト主張スルコトハ困難ナルベシ、日米間ニモ亦等シク古キ衝突ノ存在シ居ルコトハ世人一般ノ知リ居ル所ナリ、予ハ茲ニ確信ス目下日独間ニハ戦争状態成立シ居ルニ拘ハラズ日米間ノ右等ノ紛争ハ日独間ノ衝突ヨリモ尚一層強烈ノモノナルコトヲ、而シテ予ガ日本ヲ同盟ニ加入セシムル様カランザニ勧誘シタリトテ夫レニ何等ノ不思議モアラザルコトヲ、日墨關係ハ頗ル古シ古代ノ墨国人ト日本人トハ同一人種ニ属ス兩國ノ關係ハ良好ナリ聯合側新聞ハ他国ノ同盟国ヲ割カントスルハ恥ヅベキ事ナリト言明シ居レドモ斯ル非難ヲ聯合側ヨリ聴クハ奇怪千万ナリトス何トナレバ吾人ノ敵ハ三十年来吾人ト同盟ノ關係ニテ結合シ居リタル二国及二国民ヲ何等ノ遠慮モ会釈モナク分離セシメタレバナリ(訳者曰ク伊太利トルーマニヤナラン)又未聞ノ暴力手段ヲ用ヒテ古代文明ノ淵藪タル希臘ヲ屈從セシメタル聯合諸国ハ吾人ニ對シテ前記ノ

如キ非難ヲ試ミ得ザル筈ナリ墨国及日本ト同盟ヲ結バント欲スルニ当リ予ハ吾人ノ勇敢ナル軍隊ガ既ニ全世界ヲ敵トシテ奮闘セルコトヲ考慮シ且ツ出来得ベクンバ新規ナル敵ヲ避クルコトハ予ノ義務ナリト信ジタルナリ墨国及日本ガ恰モ此目的ニ適合スルモノナルコトハハース氏モ肯諾セララルナラン是レ予ガ前記訓令ヲ發送スルハ予ノ愛國の義務ナリト思考シタル所以ニシテ今日ト雖モ予ハ尚正當ノ仕事ヲ為シタリト思考シ居レリ云々

右及報告候 敬具

一〇〇三 四月十六日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

墨国政府及一般人民ノ親独の態度ニ関シ報告

ノ件

第三二号 (四月十八日接受)

現戦争ニ對スル墨国政府ノ態度ニ付拙電第一一号及第一三号中ニ記シタル觀察ハ未タ之ヲ變更スル必要ナキモノト認メ居ルモ從來協商側外交官ハ独逸ノ暗中飛躍ニ頗ル神經ヲ高メ米國カ戦争ニ入りタル以來ハ同國大使館ヲ情報ノ「セクター」トシテ之ニ對スル方策ヲ研究シ居ル次第ナルニ一

方当國ノ形勢ヲ見ルニ本月初旬ヨリ開會準備ノタメ召集セラレ居ル議會ニ於テハ「オブレゴン」將軍派即チ排米親独派大多數ヲ占メ最近議員ニ當選セシ故ヲ以テ放免セラレタル「パラビチニー」(文部次官ヲ辭シ「プロアライ」ノ新聞ヲ始メ盛ンニ協商側ヲ弁護セシカ軍人ヲ攻撃セル理由ノ下ニ先般「オブレゴン」配下ノタメニ捕縛セラレ居リタリ)ヲ更ニ選舉法違反トシテ放逐ノ上前同様ノ理由ヲ以テ逮捕シ又其新聞ハ当初捕縛ト同時ニ発行停止ヲ命セラレシカ如キコトアリテ協商側ニ對スル風向惡シキ模様ナリシカ昨十五日夜議會開院式ニ朗読セル「カランザ」執政ノ教書中陸軍省報告内ニハ暗ニ對米戰備ノ充實ヲ促ス文句アリ傍聴者ハ之ニ向テ大ニ喝采セル上儀式終了外交官退散ノ際ノ如キ議會ノ内外ニ於ケル群集ハ米國大使及仏國公使ヲ取巻キ一齊ニ独逸万歳ヲ叫ビ非常ナル協商側反對ノ示威運動ヲ試ミタル次第ニテ形勢漸次協商側ニ非ナリトモ觀察セラルヘキ点アリ且独逸公使等カ巧ミニ「オブレゴン」初メ陸軍側ニ取り入り無線電信ノ利用其ノ他種々ノ方面ニ活動シ又國境附近ニ於ケル独逸人ハ何等對米陰謀ヲ企テ居ルヤノ疑モアルニ由リ協商側ハ墨國ヲ今日ノ状態ニ放擲シ置クノ不

得策ナルヲ思ヒ今後或ハ之ヲ自己ノ側ニ引入レント画策スルニ至ルナキヲ保セストモ思ハル聊カ穿チ過キタル觀察ナルヤ計ラレサルモ為念申上ク尚万一如斯画策ヲナスコトアリトスルモ本官ハ之レ却テ当國政府及一般人民ノ感触ヲ害シ寧ロ協商側ニ不利益ナル結果ヲ来サズヤト思考シ居レリ在米大使ノ参考迄ニ同官ヘ転電セリ

一〇〇四 五月十一日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

米國參戰ノ真因ハ墨独同盟陰謀ニアル旨米國

大使談話ノ件

第四三七号 (五月十二日接受)

昨十日米國大使ト雜談中今回米國カ歐洲戰ニ参加セル原因ニ談及シテ曰ク自分ハ米國中腹部タル「セントルイス」ノ者ナルガ同地方ハ勿論西部地方ニ於テモ元來歐洲戰ニ参加ナドノ考ハナク之ヲ避ケシメンガ為「ウィルソン」ヲ再選セシメタルホドナルニ遂ニ大統領ヲシテ参加ノ余儀ナキニ至ラシメタル真原因ハ独逸ノ潛航艇戰ニ非ズシテ全ク独逸外相「チンメルマン」ガ例ノ日墨独陰謀露頭ヲ発表セシメタルニアリト為シ同外相カ斯ル愚策ヲ思付キタルサヘ不可

解ナルガ之ヲ發表セシメタルニ至リテハ愚ノ極ニシテ右發表以來前記地方ハ墨国ニ接近シ同国トノ利害關係密接ナルコトトテ俄然其ノ態度ニ變調ヲ来タシ遂ニ東部諸州ノ参戦説ニ呼応スルコトトナレリ云々
在欧米各大使へ転電セリ

一〇〇五 五月二十七日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

歐洲戦争ニ対スル墨国ノ中立態度及日墨独同

盟事件等ニ付前外相アギラール將軍談話ノ件

第四七号

(五月二十九日接受)

前外相アギラール將軍来市セルニ依リ五月二十六日之ト会話シ得タル所ヲ綜合スレハ左ノ如シ

一、大統領ハ拙電第二七号ニ予想セル通り同將軍ヲ再外政ノ局ニ当ラシメントスル意嚮ナルモ議會ハ「オブレゴン」派多数ヲ占メ居ルニ由リ聊カ形勢ヲ觀望シ任命ヲ躊躇シ居ルコト

二、現戦争ニ対スル墨国ノ態度ハ中立嚴守ニアリ而シテ米國大使ハ赴任以來既ニ三回米國ノ歩調ニ倣ハンコトヲ要求シ三回トモ拒絶セラレタルタメ彼ハ墨国カ容易ニ動カ

ケル大統領ノ演說中墨国カ其意(中立)ニ反シテ戦争ニ卷込マルル虞ナキニアラザルヲ云ヘルハ即チ之ヲ指セルモノニシテ「アギラール」將軍ノ談話中ニハ今後場合ニ依リテハ此点ニ付何等本官ニ相談ヲ持込ミ来ラズヤニ思ハル節アリシ次第ナルガ帝國政府ニ於テハ墨国政府カ現戦争ニ対シ如何ナル態度ヲ執ルヲ望マルヘキヤ

二、在米大使往電第一九二号末段ハ承認問題ニ対スル帝國政府ノ態度ヲ米國政府ノ夫レニ追從セシムルコトヲ暗示スルモノナルカ如クニモ解セラルル処本件ニ付テハ未タ何分ノ御訓令ニ接シ居ラザルニ付本官ニ於テハ依然帝國政府ノ方針未定ノモノト解シ居ル次第ナルカ之ニテ差支ナキヤ

右在米大使へ参考迄ニ転電セリ

一〇〇七 六月一日 本野外務大臣ヨリ
在墨国太田臨時代理公使宛(電報)

墨国ノ中立及承認問題ニ関シ不干涉ノ態度ヲ

採ルベキ旨回訓ノ件

第一六号

貴電第四八号第一項「アギラール」ガ墨国ノ執ルヘキ態度

一五 独国ノ日墨独同盟策謀關係一件 一〇〇七 一〇〇八

ザルヲ識リ現在ニ於テハ其ノ態度ヲ變更シ単ニ中立嚴守ヲ望ムニ至リタルモ今後再ヒ引込運動ヲ開始シ強圧手段ヲ用イルナキヲ保セザル処墨國政府ニシテ独逸ヲ敵トシ参戦スルカ如キハ全然理由ナキノミナラズ米國ニ屈スル時ハ内政上政府ハ根本的瓦解ヲ免レザルヘク又独逸ニ加担セハ米國ト交戦セザルヲ得ザル羽目トナルヘシトシ竊カニ此点ニ付苦悶シ居ルコト

三、日墨独同盟事件ニ関シテハ拙電第十四号ニ推測シタル如ク當時独逸公使ヨリ墨國政府ニ対シ申込ミタル次第アリ外相ニ於テ拙電第一一号所報ノ探リヲ入レタルモ日本ノ到底動カザルヲ思ヒ其ノ儘ニ抛擲セリ
在米大使へ参考ノタメ転電セリ

一〇〇六 五月二十九日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

墨国政府ノ中立提議問題等ニ付請訓ノ件

第四八号

(五月三十日接受)

左記ノ点ニ付本官ノ含迄ニ何分ノ義御回訓ヲ請フ

一、拙電第四七号中第二ノ点ハ目下当國政府ノ最モ心ヲ悩セ居ル問題ニシテ過日「オブレゴン」將軍ノ送別会ニ於

ニ関シ貴官ニ相談ヲ持込ムヤモ計ラレザル如キ口吻ヲ洩ラシタル趣ナルガ同當局ヲシテ此ノ如キ意嚮ヲ有セシメタルニ至リタル事情詳細電報アリ度シ尚此ノ際墨國內政ニ立入り為ニ米國其ノ他ノ疑心ヲ挑発スル如キハ嚴ニ之ヲ避クヘキコト数次ノ電訓ニ依リ御心得ノ答ナルガ殊ニ墨國ノ中立ニ関シテハ差当リ何等ノ意見ヲ發表スルコト無ク全然無干涉ノ態度ヲ採ラルヘシ又貴電第二項承認ノ件モ米國政府ニ於テ佐藤大使ヨリ貴官ヘ転電ノ同大使發本大臣宛第一九七号ノ通当分其ノ儘ニ推移セシムル以上ハ帝國政府ハ之ニ先タチ何等ノ措置ヲ採ルノ意ナキニ付貴官ハ是亦何等立入ルコトナク其ノ儘ニ差シ措カルヘシ

右訓令ス

一〇〇八 六月四日 在墨国太田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

墨国当局ガ其採ルベキ態度ニ付日本トノ協議

ヲ望ム如キ意向表明ニ関シ事情詳報ノ件

第五〇号

(六月五日接受)

貴電第一六号ニ関シ墨國當局發意ノ動機ハ確實ニ推断スルヲ得ザルモ「アギラール」將軍ハ先般會談ノ際歐洲戦争ニ

対スル墨国ノ地位ヲ如何ニ見ルカト質問セルニ由リ本官トシテハ過般「カランザ」氏ノ議會ニ於ケル演説ニ見エタル如ク中立ヲ守ルモノト考ヘ居ル旨答ヘタルニ現在ニ於テハ当サニ其ノ通ナリ而シテ今日「アルゼンチン」智利等カ中立ヲ守リ居ルハ全ク米国ニ対スル前哨タル墨国ノ態度ニ倣ヒ居ルガタメニシテ墨国ノ一挙一動ハ南米諸国ノ将来ニ大影響ヲ及ホスモノナル所米国ハ従来中南米ノ諸国ニ加ヘタル如キ庄迫ヲ墨国ノ上ニ加ヘントスル疑ヒナキニアラザルヲ以テ「カランザ」大統領ハ此場合ニ処スル方法ニ付心配シ居ル旨ヲ語り本官ガ近來米国外使ハ墨国カ中立ヲ嚴守セムコトハ米国外政府ノ熱心ニ希望スル所ナル旨新聞ニ宣言シ居ルニアラズヤト謂ヒタルニ対シ同大使ハ赴任以來三回米国外ト同一行動ニ出デシコトヲ要求シ三回共墨国ハ米国外ノ要求ニ応スヘキ理由ナシトシテ之ヲ拒絶シ其ノ後同大使ハ態度ヲ變シ中立嚴守ヲ希望シ貴官ノ謂ハルル如ク新聞等ニ宣言スルニ至リタルモ彼ハ甚タ輕薄ナル人物ナルヲ以テ今後又如何ナル運動ヲ開始セムモ計ラレズ且米国外ハ墨国ノ態度ニ付深く疑心ヲ懷キ居ルニ付戦争永引ク間ニハ又々引込ミ策ヲ講セムカト思ハルル次第ナルガ墨国外カ米国外ノタメニ

独逸ニ開戦スルハ何等理由ナク又米国外ニ屈スルトキハ国民ノ反对ヲ受ケ政府ノ立場ヲ根底ヨリ覆スモノナルヘク又之ニ反シテ米国外ノ庄迫ニ反抗セントセハ之ハ戦争ヲ覚悟セザルヘカラザルヲ以テ政府ハ此ノ「デレンマ」ノ地位ヨリ如何ニセハ脱シ得ルヤノ問題ニ付頗フル憂慮シ居リ「カランザ」氏及自分ハ甚タ苦シキ解決方法ナルモ若シ独逸ニ向テ開戦スルコトカ絶対ニ必要トナル場合ニハ日本ニ加担ストノ名義ニテ協商側ニ加ハリ米国外ノ庄迫ニ屈セリトノ誹リヲ免カルコトトセハ如何カトモ考ヘ居レリト語りタルニ付本官ハ問題ノ性質機微ナルニ鑑ミ何等之ニ対応スルヲ避ケ話頭ヲ他ニ転シタル次第ナルカ拙電第四八号ニ今後場合ニヨリテハ何等本官ニ相談ヲ持込來ラズヤト思ハル節アリシト云ヘルハ即チ之ニ基ケルモノニシテ本官トシテハ帝国政府ノ希望ヲ含ミ置キ万一正式ニ意向ヲ求メラレタルトキハ夫レトナク之ニ添フ様措置セムト考ヘタル訳ナルガ右貴電第一項ハ斯ノ如キ場合ニ際シ如何ニ解釈心得ヘキヤ今一応御回示ヲ請フ(以下省略)

在米大使ヘ転電セリ

一〇〇九

六月六日

本野外務大臣ヨリ
在墨国太田臨時代理公使宛(電報)

墨国外ガ対独開戦ノ止ムヲ得ザル場合ニ於ケル

参戦理由ヲ日本ニ結ビ付クルノ不可ナル旨回

訓ノ件

第一八号

貴電第五〇号ニ関シ墨国外政府カ米国外ヨリ参戦ヲ余儀ナクセラレ対独開戦ノ已ヲ得サル場合ニ米国外ノ庄迫ニ屈セリトノ誹ヲ免カルルカ為メノ内政上ノ見地ヨリ日本ニ加担ストノ

名義ニテ協商側ニ加ハラントノ「アギラール」將軍ノ考案ハ墨国外ノ内政上ニ日本ヲ利用セントスルモノニシテ其ノ結果日本ニ取リテハ徒ニ連合与国ノ疑惑ヲ招クニ至ルヘシ就テハ若シ同將軍ヨリ貴官ニ正式若クハ非公式ニ本件意向ヲ求メ來ルコトアルモ帝国政府ハ之ヲ承諾シ難キ旨明白ニ返答セラレ且先方ヲシテ此種ノ画策ノ到底目的ヲ達シ難キヲ篤ト自覺セシムル様可然御措置アリタシ

本件参考トシテ在米大使ヘ転電アレ